

会 議 名 (審議会等名)	第5回川西市立学校校区審議会		
事 務 局 (担 当 課)	教育委員会教育振興部学校教育室学務課 (内線3385)		
開 催 日 時	平成20年9月17日(木) 午後5時30分～午後6時40分		
開 催 場 所	川西市役所4階 庁議室		
出 席 者	委 員 員	植木壽子、三上和夫、米川英樹、石村万寿美、福島秀樹、釜本孝彦、安井正弘、安田末廣、秋田修一、中井成郷、則兼千世	
	そ の 他		
	事 務 局	益満教育長、牛尾教育振興部長、仲学校教育室長、仲岡学務課長、尾辻学務課長補佐、稲野学務課主査、夏目学務課主査、尾屋学務課主任	
傍 聴 の 可 否	可	傍聴者数	2人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会 議 次 第	1 議 事 (1) 会長及び副会長の選任について (2) 諮問事項に係る審議		
会 議 結 果	(1) 審議経過のとおり		

会 長	早速ですが、議事に入りたいと思います。議事の二番目、諮問事項に係る審議についてでございます。新たに委員になられた方もいらっしゃいますので、まずは前回までの整理という意味で、事務局から諮問事項並びに、これまでの審議状況についての概略説明をお願いしようと思いますが、よろしいでしょうか。では、お願いします。
事務局	それでは、今回の諮問等につきまして、これまでの経緯を説明をさせていただきます。平成19年12月20日に第1回校区審議会を開催いたしました。その時の諮問事項について、ご説明させていただきます。諮問事項3点ございました。川西市立小学校、中学校、幼稚園の校区に関する事ということで、まず1点目が川西北小学校及び明峰小学校、そして川西中学校及び明峰中学校の校区変更についてということございました。2点目が多田小学校及び清和台南小学校、多田中学校及び清和台中学校そして、多田幼稚園及び清和台幼稚園の校区変更ということございました。3点目が陽明小学校及び東谷小学校並びに牧の台小学校、緑台中学校及び東谷中学校、そして松風幼稚園及び東谷幼稚園並びに牧の台幼稚園の校区変更ということで、三点、諮問をさせていただいております。その後平成20年1月末に、2回目のご審議をいただいております。また、3回目を3月24日に開催しまして、ご審議いただいておりますが、その中で東谷小学校、陽明小学校等の審議につきましては、しばらく中断、審議の優先順位を後に回させていただくという事で、ご説明をさせていただきました。そして第4回を5月29日に開催させていただきます、このとき新たに、今回ご視察いただいたところでございますが、ステラヒルズ川西の開発に伴う校区の設定ということで、これをまず第一優先順位としてご審議をお願いしまして、21年度の早い時期に校区の設定をお願いしたいということで、説明等させていただきました。また、川西北小学校、明峰小学校等につきましては、審議の状況を見まして、進めさせていただくということですが、児童、生徒数の推移を見守りながら、その辺りも含めまして、ご審議をお願いしたいと考えております。
会 長	この後でございますが、まずステラヒルズ川西の校区の設定につきまして、ご審議を賜りまして、その後、先程申しあげました川西北小等につきまして、ご審議いただけたらと存じます。また、その際には昨年度若干、児童、生徒数等、周辺状況の関係も変わっておりまして、その辺り、事務局も資料提供させていただきまして、説明をさせていただきたいと存じます。簡単ではございますが、経緯につきましては以上でございます。よろしく願いいたします。
	これまでの経緯で、今年度において、ステラヒルズの議事を優先してやるということで、今日、現地視察もやりました。参加いただきました委員の皆さんには、色々なところから見えてきた問題点につきまして、とりわけ、ステラヒルズの開発が進行した後の幼稚

	<p>園、小学校、中学校の配置及び長期的な意味での学校及びコミュニティの成り立ちみたいなことですね、たくさんあろうかと思います。また、今日の視察の部分は、かなり生々しい部分も含めまして、率直に入り口としてどういう意味があったかということも含め、委員としてのご意見を賜ることも含めて、この校区審議会としての新しい3年間を考えていくきっかけに出来たらと思います。時間の範囲内で様々な視点でのご意見を賜り、また事務局の方でこの様々なご意見についての、資料的な視点での提示がございましたら補強していただきたいと思います。そして、もう一つは、事務局の方での様々な資料提供の分は、教育委員会に限りません部分もございます。それらが色々ありましたら、今日また課題を提示していただいて、次回以降の話題にさせていただくということで、色々ご意見を賜ればと思います。現地でのご感想はいかがでしたでしょうか。</p>
委員	<p>私は地元なので、現場的な地理は分かっていますが、ステラヒルズの頂上に上らせていただいたのは初めてで、周囲の開発、ニュータウンより、更に高い位置であると。一番高い位置だなと思いました。もちろん、それぞれの小学校、中学校、将来の推計はあると思いますが、ただ地形的に見て、牧の台あるいは緑台小学校、どちらの方向に行くにしても、地形的に見て大変厳しい状況だなというのが、良く分かりました。一つお聞きしておきたいのは、ステラヒルズ、今日見せていただきましたら、国道の拡幅工事といいますが、関連の整備工事がもう既に始まっているということで、恐らくステラヒルズとしては、この開発をやり遂げる決意の元に、国道の工事に着手しているのではないかと考えておりますが、本当にこの1500戸、5000人の人口のニュータウンが、会社が考えている様な入居計画で開発が成就出来るのか、若干私は疑問に感じております。そこでお聞きしたいのは、今のこのステラヒルズの開発協議、所管は開発部局だと思うのですが、開発協議がどこまで進行しているのか、開発許可が下りておるのか、まだ事前協議の段階なのか、その辺をお聞きしたいのと、今現在、入居予定が、どんな入居計画になっているのか、その辺りもお聞きしたいなと思います。</p>
会長	<p>事務局の方で、現時点での可能なインフォメーションがありましたら、お願いしたいと思います。</p>
事務局	<p>今、委員から二点、ご質問をいただきましたが、まず1点目の開発協議の関係ですが、開発の所管課からは、既に開発許可が下りているという事で聞いております。入居等でございますが、工期は三期に分けてされると聞いております。第一工期が約2年程かけて、全体では約5年の工事期間と聞いております。販売計画というのは詳しくは私も把握は出来ていませんが、22年の夏頃から販売をされるのではないかと聞いております。実際の入居は、少し後になるろうかと思います。これはあくまでも業者からの情報でございます。</p>

委員	私、日頃、緑台中学校のあたりから、ステラヒルズを下から見上げていますが、今日は初めて中まで入りまして、改めて牧の台小学校にしろ、緑台小学校にしろ、かなり遙かな所にあるなど。非常に地形的にも、確かに眺めは良いんですけど、果たして子どもさん達が毎日通うことを考えた場合、問題があるのではないかなど。昔のことを言ったら笑われるかもしれませんが、我々の子ども時代と今の子どもの生活とは違いますので、すぐに解決する問題ではないというのが、第一印象でありました。
委員	今日はちょっと見学は失礼しましたが、以前に現場を見ておりますので、現場の状況は分かります。本来は、川西は大型団地がたくさん出来てきて、その中で小学校あるいは、中学校が建設されてきてますね。川西では、こういう大きな団地を開発するとき、開発指導要綱というのがありますね、全国的に有名な。そうした時に、ここの開発についてはどういうふうになっておるのか、学校の部分について。今回はここに学校を造らないから、これから校区をどうしようかという話になりますが、今までの川西のこういう大きな開発の時は、小学校あるいは中学校を建設していた訳ですね。これ、指導要綱の中でどういうふうに謳われているのか、その辺、事務局の方で分かっておれば、ちょっとお聞きしておきたいのですが。どうなってますか。
事務局	委員ご指摘の指導要綱ですが、開発指導要綱の中で、具体的に学校の位置付けというのがどうなっているかというのは、申し訳ございません、把握できておりません。以前からの経緯として確認できているのは、当初の計画では、学校を建設するだけの子どもが見込めるという事で、計画がありましたが、それが何回か計画変更になりまして、現在の人数、住宅規模になり、学校建設が出来なくなっているという状況です。
委員	結果的には、学校は造らないということで、今回こういう計画をされていますが、私が今ちょっと感じているのは、進入路あるいは出ていく道は1本だけなんです。先程の話では開発指導の許可が下りているということですが、多分、道をもう1本つけないといけないと思うんです。それによって、校区のあり方というのはもの凄く変わってくると思います。極端に言ったら、牧の台の方に道が抜けたら牧の台小が近いだろうし、グリーンハイツの方に道をつけたら緑台小の方が近いかもしれない。だから、そういうのを開発指導のところで、どういうふうに思っておられるのか、聞いていただいた方がいいのではないかと思います。率直な意見としてそれだけ申しあげたいと思います。
会長	今日見ていた複雑な景色は、教育委員会並びに校区審議会の複雑性を遥に超えるようなものが、一杯入っているという感じを私は持っていました。早速このご指摘があるような部分を、非常に衝撃的発言に聞こえますが、道がもう1本必要だという総括所見がまず出て、オピニオンになっている点あたりが、今日の景色に似つかわしい話題だなと思っております。それともう一つは、この校区審議会が扱うテーマの中で、非常に情報も

	<p>価値判断も、多元的な判断を迫られる様な事態になっていて、これは、教育委員会並びに校区審議会が、ここまで複雑な問題を単独に扱い得るかという、それはあまり心配してもしようがない。むしろ関連する委員会及び市部局の、様々な状況把握を照らし合わせながら、丁寧な、校区審議会は校区審議会としての、そして教育委員会は教育委員会としての施策選択を、というふうになっていくのかなと思いました。下の方には高速道路が走る、そしてその上に人々は住んでいて、一番上の方から見ると何重にも重なっている、累積性と言いますか、何重にも人々が活動してるという場面が、大変印象的でした。</p>
委員	<p>ステラヒルズに上がったのは初めてでしたので、どちらを見ても遠いし、どちらに決めてあげても可哀想だなというのが、正直なところですね。地図上で見ていると牧の台の方が近いのかなと。どちらか答えを出さなければならないのであれば、今のところは牧の台なのかなと思いました。幼稚園も牧の台の方が近いですね。駅を利用してという観点からも、今のところは牧の台なのかなというのが、取り敢えず今日見たところの感想です。</p>
会長	<p>PTAの方ですと、通うという気持ちの部分で色々あると思います。よろしくお願ひします。</p>
委員	<p>一番上に上がらせていただいた時に、両方小学校を見まして、そこに学校が出来ない訳ですから、どちらかを選択をしないと駄目なんだなと。それがこの審議会の役目なんだなと思うと、ちょっと途方に暮れた感がありました。やはり道程ですよ。あの中に循環バスが通るとしても、その出口の所から1キロ以上の距離を階段であり、坂であり、登っていかないといけない子ども達の姿を想像すると、つらいものがあるなというのが、正直、親としての印象でした。それを親の立場で、どれだけの方が買われるのかなというところですね。私は日生なんですけど、学校がどこにあるのか、小学校がどこにあるのか、幼稚園がどこにあるのか、中学校がどこにあるのか、高校はどこに行くんだろうか、やはり理想を描きながら、家を買われると思うんですよ。そうなった時に、小学校というのを捉えると、小学校の1年生が、循環バスで表に出たとしても、1キロ半程歩いて、しかも平坦な道じゃない、階段を登って行かなければならないということを見ると、果たして買われる方がどれだけいらっしゃるのかなと。もしこのプロジェクトが一期でこけたらどうするのかなとか、そういうことも考えました。どちらか決めろと言うのであれば、やはり牧の台の方が近いのかなと思ったんですが、それも私達としては、不安一杯に決めないと駄目なところが、難儀があるなと、はっきり今日はそう思いました。</p>
会長	<p>今日の短時間ではございましたが、非常に強い印象をお持ちのようです。</p>

委員	<p>私は、今日、現地視察の方にはお伺いしてないんですが、仕事の関係上、川西市には長く携わっておりまして、ここの宅地が造成されてた時も知ってますし、それが一旦止まって、また開発されたという話をお伺いして、びっくりしています。先程言ったように、この開発がまた進むのかということに対して、本当にいくのかなというのもあるんですね。今お伺いしたとおり、開発がまた進むということを聞いて、今回こういう事が審議がされていることに、ちょっと驚いています。どちらかの校区といいますと、やはり地図上で見る限り、牧の台の方と思いますが、この道ですが、私達子どもを通わす親としては、道が遠い近いというよりも、子ども達が安全に、その通路で通えるかということが、本当にこの車社会の中で、日々感じているところです。どんなに近くても、道が悪くは通ってはいけない道だろうし、近くても安全でないところに親が子どもを行かせるといことは、不安で仕方がない。この道を見ますと、牧の台の方にずっと上がっていく道というのは、大きな国道を、細いガードレールの中を上に乗って上がっていくと。反対に緑台の方は、この大きな国道を渡って行かないといけない。どちらをとれと言われても、親としては選べない選択だなというのが感想です。本当にこの道が子ども達が通える、安全であるということが保障されているのでしょうか。そうでしたら、何らかの方法で道をもう少し綺麗にさせていただくとか、子ども達がちゃんと通える様な道をつくるという事が、一番最初に議論することではないかと感じました。</p>
会長	<p>開発自身が、当初通りに一直線進行ではないという問題が一つ。そしてその上で、新しい開発をやるときには、それに対応すべき教育委員会としての施策および、開発要綱の所での指導というものがあるという、川西市が歴史的に蓄積してきたものがある訳ですが、規模が変わってくると、川西方式なるものの実施の度合いも違ってくる訳ですね。端的に言えば、一番大きいのは、あそこに学校を造ってもいけるはずだったのに、学校を造る訳ではないという話になってるあたりを含めて、かなり戦略的に一杯出てきています。これは、問題は問題だというふうにとどまるのですが、校区審議会としての責任で言いますと、川西方式ですと必ず1校造るにあたっては、一体一対応で開発及び学校配置まで含めた、全体として対応していたという見方もあり得る訳ですね、議論としては。</p>
事務局	<p>開発指導要綱の内容まで把握しておりませんが、団地の開発規模によりまして、学校の建設というのは、必然的に開発指導の中で、従前からは協議されておるようです。ただ今回は、規模的な関係でそこまで至らなかったと聞いております。それと開発に伴いまして、担当部局の方に協議というのが参りますが、その時点で、通学上の安全対策とかそういった面につきましては、教育委員会としても事業者なり開発部局へは要望等しておりまして、当然その点協議も、今後ともしていきたいと考えております。</p>

委員	<p>すいません、私、現地は見ておりませんので、今おっしゃっているような距離感というのは、ちょっと分かりませんが、校長が一番気になるのは、先程保護者の方がおっしゃいました、安全なんです。これはもの凄く気になります。ちょっとでも交通事故等に合うと、非常に気にするところです。もう一つは、私の学校は増築したにもかかわらず、教室が足りない。来年は2教室増えて、図書室を普通教室に使わないといけないという様な状況が生まれますが、そういう面で牧の台小学校を見たら、ピーク時でも空教室があるということで、その辺のキャパシティはあるみたいですね。あとは距離ですね、同じ距離でも坂道とか、そういうところとそうでないところの違いといったらあるように思いますね。子ども達を見ていたら、汗をかいて、夏は必死になって上がってきてるようです。その辺は近いにこしたことはないと思います。安全面と施設的なキャパシティ。</p>
委員	<p>私は今日行かせていただいて、これだけ大きな開発なのに学校がないという事、それで学校がないから選ぶということで、私、幼稚園の方から出させてもらっていますが、就学前の公教育の幼稚園には通えないんだなというのを、あの場に立ちまして感じました。小学生でもなかなかの距離、起伏、ましてや4歳、5歳のお子さんは到底無理かなと一番感じました。やはり親にとっても学校にとっても安心安全に子どもが通えるのをどうしていくかということが課題かなということで、実際この開発、自分が親の立場となったら、この家を買うかなと、学校もないのに、ということはこの開発は出来るのかなという様な心配もしたのが実感でございました。</p>
会長	<p>やはり、4歳、5歳というイメージでおっしゃると、相当なものですよね。どうもありがとうございました。</p>
委員	<p>コミュニティの方が仰ったこと、非常に私も心に染みまして、その通りだなと、気が付かなかった事もございました。また学校関係の方とか、地域の方のおっしゃる事もその通り、幼稚園の先生がおっしゃる事もその通りだと思います。最初5000人規模だったと、このヒルズはね。それがなぜ3500に引っ込めて学校を一つ造らなくてもよくしたかというのは、多少もやもやした部分もあるんですね、どうしても。その時に教育委員会は許可を出すか出さないか、その前の協議の段階が、きっと部署では各部署集めてあると思いますが、どういう意見を出したのかという事も知りたいところですね。それが一つ。もう一つは、学校は一つ造らなくても良いと、もう決まったことだったら仕方がないとしても、仕方がないかどうか、諦めるのは早いかもしれませんが、公共用地と言いますか、公共施設が建つのが4分の1ぐらいは占めてるんじゃないかと思うんですね。これは将来、完成するか、ある程度になった時に、市が寄附を受けるのかどうか。そうすると、市のものになれば、ここは将来満杯になるとか、色々な問題が現実化した時に、あるいは地域の人達で学校が一つ必要ではないかというようなものが、万</p>

	<p>一出てきた時には、用地確保はあらかじめしておいた方が、現実には公園においても良いんですが、市有地にしておれば何時なりとここには学校が建ちますからね。そういう考えも一つ、私の脳裏をかすめたことです。</p> <p>それからもう一つありまして、学校一つ造らなくて良いと、業者はね。そのお金は要らなかった訳ですから、そうだとすると、通学路の安全性と皆さんおっしゃってますが、この安全性は色んなやり方があると思うんです。今の道路の上に橋を架けるとか、とにかく安全、これは一つの思い付きですが、迂回路をつくるとか、学童だけが通れる様な道路を、緑台へ行くとするならば横断しなければならない。それから牧の台に行くとするならば歩道を拡幅しなければならない。そういう手当をするための業者負担も考えた方が良いのではなかろうかなと。こういうふうな感想を今持ちました。今どちらが良いかと言われましても、どちらも同じ様な坂がございますし、距離もさほど変わらない。ただ緑台中学というのは、ちょっと離れておりますが、中学生になると1キロ離れておっても大差はないと。問題は小学校の低学年とか、幼稚園だろうと思うんです。そんな意味で、今、私はどちらを選択しろと言われても、まだ結論が出ておりません。</p>
会 長	委員のご発言は、今抱えている問題をどういうふうに全体を見直すか、戦略的にどこを問題とするかということ、大変示唆的なところが多いものでした。
委 員	これは、考え方としてはもの凄くシンプルだと思うんです。解決というか、要するに三つしかない。敷地に建てるか、牧の台小学校に行くか、緑台小学校に行くか、三つだろうと。条件はね、ステラヒルズに今住民がおられない、反対運動もない、だからやり方としては非常にやりやすい。例えば牧の台に行くと、あるいは緑台に行くと、これは誰も反対しないですよ。だけど、それはそれで良いのかという問題がありますよね。20年、30年の後を考えた時に、それでこの校区審議会が責任を果たしことになるのかという問題があります。やり方としては、非常にシンプルなんです、三つのうちどれかという。ただそこに、どういう様な制約条件があるか、議論している中で、どういう制約条件があるのか。例えば3500では、財政的な問題だとか、色々な問題を考えて、第一番目の、例えばステラヒルズの中に建てるということは、最初から無理なのかどうかという問題がありますよね。これは非常に大きな問題ですよ。それを確認する必要があるだろうと思うんです、議論の前提として。これは多分、教育委員会サイドだけの問題ではなくて、開発部局の方をここにお呼びして、具体的にお聞きする必要があるだろうと。場合によっては、業者もお呼びして意見を伺うと。これは糾弾会というのではなくて、率直にどこまでいっているのかというふうな事で、冷静に我々も対処するために、情報を集約していくと。そうしないと、多分議論の前提が確立しないだろうというふうに私は思います。それから先程委員が仰った、隘路というか、もう一つの隘路、これは

隘路無しには開発は許可されないだろうと思います。何かあったときに塞いでしまう。開発の条件としてはあるはずなんです。それがまだ出てきていないと、それをどこにつけるかという問題はあるはずですよ。それも含めて、開発部局とあるいは時によっては業者ですね、意見を聞かないと、我々としては、なかなか議論の集約ができないと思います。やはり視点というのは、子どもにとって安全な通学、あるいは学校をどういうふうに造っていくかという事、これが20年、30年後を見通した中で、どういう選択肢があり得るのかということがあると思います。

さっきも委員が仰った様に、近隣公園等の空地地というのはあるんですよ、これを本当にそれで良いのかという問題、ここでもう決まってしまうから、それはもう要らないんだという議論もあるかも知れませんが、例えばそういう近隣公園等の公有地候補を、一部を例えば学校を建てる余地はないのか、しかもそれは小学校だけじゃなくて、例えば小中一貫の学校ということもあり得るかも知れませんよね。もしもそういう形が可能であれば、例えば運動公園を運動場と共有する形で出来ないものか、そういうことも考え方としてはあり得る訳ですよ。そういう問題とか、あるいはこれがもう駄目で、牧の台小学校あるいは緑台小学校に行くにしても、通学の安全ということ考えた時に、どういう形が可能なのか。バスの便がひよっとしたら必要かも知れないし、電車で行かれるのであれば、電車通学の補助を市がやるのかどうかということもありますよね。そういうことを総合的に考えないと、多分今回の議論というのが、20年、30年後の住民に対しては、責任を全う出来ないのではないかなと思いますので、慎重に議論をしないと、しかもその制約条件というのは、一体何なのかといった事を見据えた上でやっていく必要があると思います。

会 長

委員の発言を聞いていると、校区審議会というのはそんなに大課題を担うものだったのかなという印象を持ちました。これは教育長も含めて、相当大きい問題がどうやらここに凝集している面もありそうだと。今日、会が行われる前に現地調査をするというあたりの気張り様からしても、既にここまで来ているのだということかも知れませんが、率直に驚いているのは、校区審議会は校区にまつわる様々な利害関係と調整の部分を丁寧に審議して、それを教育委員会の施策のベースにするというあたりに、かなり限定していたと思うのですが、そこに今日相当リアルに言われましたテーマが三つあります。一つは安全、もう一つは業者まで含めて様々な関係主体の事情を丁寧に聞き取らなければいけないというふうな部分ですね、それともう一つは、学校をどちらにしても問題解決とは思われないという、学校校地まで含めた制度設計部分ですね。三つとも出てしまっているんですね。これはとても不思議な審議会だというふうに思いましたが、いかがでしょうかね。安全、事情聴取、制度設計まで含んだ、こんなに大テーマになっていると

委員	<p>は、今日はびっくりしました。</p> <p>ここが開発されたときに、ここの住民の方々の子供達達の学校をどこにするのかということで、我々今やっちゃってしておりますが、今の皆さんの意見の中で、開発業者が反対にこの地域の子どものことに対して、学校の通学あるいは通園なんか、スクールバスを極端に言ったら出して貰えれば、どちらの校区でもいいんです。安全面とかなんとか言っても。業者がスクールバスを出して、どちらかの校区が決まったら送りますよと、送って帰ってきましょうというのであれば、反対に簡単な話ですよ。そういう細かいところが煮詰まっていない、解決されていないからどうしようかと、みんな悩むのではないかと。反対に安全面をそういう形で確保できるのであれば、案外結論は早く出せるのではないかなという感じはしています。だから、その辺のところを開発業者に、安全面をどういうふうに考えているのかという事を、詰めて貰った方がいいのではないかなという感じはします。</p>
委員	<p>ただ、そのスクールバスを運行する業者ですよ。いつ倒産するか、いつ逃げるか分からないでしょう。</p>
委員	<p>それはそうなんです、実際にそうなんだったら、先程皆さんがおっしゃったように、誰も住みませんね。</p>
委員	<p>住む、住まないはともかくとして、私は業者がスクールバスを通すというのはちょっと。</p>
委員	<p>業者に出してくれと言っても、出しませんね。</p>
委員	<p>出さないでしょう、大抵スクールバスというのは、学校が運営したりしてるんですよ。</p>
委員	<p>本来は、川西市が、行政がやるべきかもしれませんが、そうしたら、他の学校区も出してくれという話になってきますから、ここだけ特別に認めるというのは。そうしたら、業者に出して貰えるのかという話しか出来ないと思います。安全面を確保できるのであれば、ある程度校区を決めるのは、早いのではないかなという感じはしています。</p>
委員	<p>スクールバスのご提案というのは、ちょっと不安な気がしますね。</p>
委員	<p>議論の順序としては、一番望ましいのはその敷地の中に学校を造るのが、一番望ましい訳ですよ。駄目であれば、次のステップとしてどうするのかという議論ですよ。本来に駄目なのかどうかというのは、確認する必要があると思うんです。でないと、議論として集約が出来ないですから。その時に業者にやっちゃって貰うのか、例えば隘路を造ってもらうのか、色んな選択肢がありますよね。</p>
委員	<p>当初から学校を造るとなると、そんなに入らないと思うんですよ、子どもが。</p>
委員	<p>それは無理ですね、最初はね。将来的に10年計画でしょうから。</p>
会長	<p>議論としては大きい問題が凝集しつつありますが、この時期の校区審議会が担うべき課題の交通整理の分と、次回にはこうしますという格好で、段取りをとって行く部分と、</p>

	<p>両方が一緒に要るんだと思います。今日の議論は大事なところが多く出ております。</p> <p>今日の時点で多様な、相当深刻な議論もしっかりやろうという意見も出ておりましたが、何か事務局の方でこれからの運営で考えることがございましたら、よろしく願います。</p>
事務局	<p>先程委員の方々からご指摘等いただきました、開発等との協議とか、経緯とか、その辺りにつきましては、再度事務局の方で確認をさせていただきます。後、今回諮問させていただきました校区設定につきましても、再度趣旨等を説明させていただくのと、またそれに必要な資料等を準備させていただきたいと考えております。よろしく願致します。</p>
会長	<p>次回以降を含めた課題設定を、丁寧にやっていく必要があるかとおもいます。このステラヒルズをどの様な格好でスタートしていくのかという事を決めていくには、次回に校区の実情がどういふ実態になっているのか、そしてその上で、今事務局の方から資料といひますか、確認するという色々な課題が述べられましたが、そういうことを報告していただいた上で、もう一度ステラヒルズの方角付けをどうするかということ議論してみる必要があるかと思ひます。その上でですが、平成20年度中に2回ぐらひは、現時点で確認できる資料及び課題はどんなことなのかということ、やってみる必要があるかと思ひます。そして、ステラヒルズのこの校区審議会に関わる課題設定をどの様に判断し、どの様に教育委員会に対して校区審議会として方角付けを行うかということ、そういう決定を来年度の早い時期に、3回目の議論をしたいと思ひます。</p>
委員	<p>次回出来ましたら、開発部局の方も出席いただければ、開発のその時点で各課の事が、まだ決まってないこともあるかも知れませんが、もう少し聞けるのではないかと思ひますので、できれば願ひしたいと思ひのですが。</p>
会長	<p>資料的準備並びに開発部局関係者の、参考意見を述べる事が出来るような状況が可能かどうか、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>資料作成と併せて開発部局の方にも話をしてみたいと思ひます。</p>
会長	<p>今預かっていただく形としては、事務局の方で可能な部分を準備させていただくというところで、よろしいでしょうか。</p> <p>今日は1日、とっても刺激の多い日でした。皆さんご苦勞様でした。事務局はすごく多くの課題を背負って大変だろうと思ひますが、よろしく願ひ致します。</p>

※ 主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。